

しんらん同人

No.584

1・2
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

災害救援活動の際に大切なことは、必要なものを必要な人に届ける事です。とにかく何かを届ければ良いというものではありません。不要なものかえって邪魔になります。

法話にも同じことが言えます。

例えば、幼子を亡くされた葬儀の席ではご遺族のお悲しみに寄り添ったお話が大切です。回忌法要でのお話。報恩講の法座でのお話。大学の宗教学での講義内容。それぞれご聴聞される方の思いに沿った内容が大切ですがその反面、どなたに焦点を合わせればよいのか難しいことです。

残念なことに、いま本山が揺れています。短期間に総長の就任と退任が続いています。領解文・財政改革など様々な問題が提起されています。問答無用ではなく話し合いが必要です。

「領解文」は、各人の領解の表明で

す。様々な領解のレベルがあっても良いのではないのでしょうか。聴聞を重ねた方の領解と、我が家は何宗かなというくらいのお同行等、夫々がそれぞれのおもいで表明しても良いのではないのでしょうか。

正しいからといって、「自分でもよくわからない内容」で表明しても伝わらないでしょう。何故、新しい領解文が必要なのか。事の原点に立ち返ってみるのが求められています。

合掌



真の幸福

誓願寺初代住職 故岡本泰雄

夕刊に『夫に先立たれた婦人が、四人の子供を苦勞して育てていた。その長男が生きる望みを失い自殺しようとしたが未遂に終わった。その報道に接した読者から多くの寄付がなされ、その中にある方から、家が苦しい中から新聞社に寄付をされたその言葉に「まだまだ私の家は幸福だと思ひ、子供たちにもそう言い聞かせたところでした・・・」と』

その方のところざしも行為も誠に尊く有難いことですが、その言われた言葉をみて、私の心の中を言いあてられたように思ひ、はっと驚いたことであった。

それは、他人の不幸と比べて、自分の幸福を喜ぶという心についてである。

私はしばしば、他人の不幸と比べて自分は幸せだと思ふ心が起る。例えば、病の人を見て、あのような病気になるはずにして元気でいられることは幸せだなあと考え、みずぼらしい人の姿を見ては、あんなにならずに食べていけて有難いことだと思ひ、自分の家に住める幸せを考える。他人の家庭の不和を聞いて私の家庭に不和なく過ごせることを喜ぶ。

私はこんな心が起る時、浅ましい自分に驚き、すまないことを思ったことであると思ひ、念仏せしめられるのである。

自分の幸福を感謝することは有難いこと

である。だが他人の不幸と見比べて自分の幸福を思うことは、誠に浅ましい冷たい心なのである。心から他人の苦悩に涙する我でなく、人の苦悩と対比して自己を喜ぶのである。

「凡夫の慈悲は、未通らず」との仰せは真である。そしてまた「まだまだ私の家は幸福だ」と思う心はその人より良い立場にあるときのみ得られることであつて、もし反対の立場にあつたとしたら、その悲痛のやり場がなくなつてしまう。相對の心しか持ち得ぬ私は、いつまでも尽きせぬ真の幸福はつかみ得ぬであらう。

しよせん、下見て暮らせ式の、他人の不幸な姿と比べて自分の幸福を納得させることも。他人の幸福を見てうらやましながら、ということも容易な業ではない。

ある人は言う「他を対象として自己に幸福を認めるといふことは間違ひである。自分の一挙手一投足は、それみな宿業なのである。だから諦めが肝心である。諦めにこそ平安がある。」と。

たしかに宿業であるに違ひない。しかし、宿業なりとしてすまし得る人は賢い人であり聖道の人である。われら凡夫の到底得られる境地ではない。宿業とは知りつつ諦めることは出来ない。一旦宿業なりと諦めてみる。だがまたしても愚痴が出る。悲

しみが湧く。心の動揺が疲れ果てるまで続くのである。

宿業を宿業とも知らず、たとえ知つてもあきらめのつかぬ私なればこそ「いずれの行も及び難き」凡愚なのである。

かかる至愚至悪の我がために成就された仏の願ひであつた。目が開かない盲人のまま、親の慈懷に抱きとられたのである。それは分かることでもなく、知りかけたことでもない。ただ本願の名号を信知するばかりである。「煩惱具足の凡夫を必ず救う」と仰せられる如来の真実を頂くばかりである。「大悲無倦常照我身」のお慈悲を聞くばかりである。常に大悲の摂護の内にある。唯そこにごそ真の幸福、不変の安心を得るのである。他者他物という縁に随ひ、幸福と思ひ不幸と感ずる限りは、常に縁は移ろいで行くのであるから、変わらない幸福はいつまでも来るはずはない。

大悲の光に遇つてみれば、あくまでも相對的な我であり、動乱極まりなき我と知らしめられる。その闇の中をさまよひ歩く我を見捨てたまわず、救いたもう大悲のまことに生かされる喜びに、念仏申しつつ歩ませていただくことこそ真の幸福、変わらない幸せがあるのである。

合掌

副住職

古賀明德

最近涙したこと

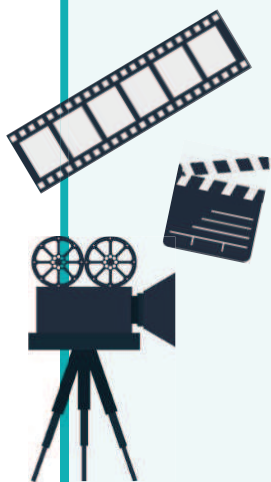


先日、4年前に日本アカデミー賞を取った『ミッドナイトスワン』という草薙さん主演の映画を見ました。一人で見て、46歳の私がボロボロ感動して泣いたのですが。助演の女の子・中学生の一果ちゃんという女の子がバレエを習っていて大会に出ることになります。でもずっと孤独の中で生きてきたので、多くの人々が見守る大会では、緊張のため踊ることが出来なかったのです。でも、自分の事を本当に大切に思ってくれる主演の草薙さんが演じる「凧沙」と出会い、自分の事を本当に大切に思ってくれる相手の心に気づき、勇気を持てるように変わっていきます。劇中で凧沙は病気のために命を終わりますが、最後のシーン一果ちゃんは「見てて」と決意を込めて緊張して踊ることのできなかつたバレエ大会の舞台へ飛び出していきます。この「見てて」について劇中で説明はありませんが、きっと命を終わっても、きっとずっと凧沙は見守っていてくれる、一人じゃない、だから今の私を傍で「見てて」と勇気を持てたのではないかなと私は思いました。

た。（大分説明省きましたが、見てない方、ぜひ時間ある時見てみてください。本当におすすめの映画！です）

人間は弱い生き物です。誰かと常に比べ、優劣をつけ、無理矢理に自分を奮い立たせたり、勇気を出す事も多々あります。心の中で孤独を感じ、動くことが出来ない時もあります。でも、親鸞聖人は「大丈夫だよ。あなたは一人じゃないよ。いつも仏さまと一緒にいてくれるよ。」と私たちに教えてくれました。あなたのことを誰よりも思ってくれる方がいつもいつでも傍にいてくれるよと。頑張つて！勇気を出して！と。

皆さんはそんな方に「見てて。」と言える毎日を送れていますか？私の日常生活も反省ばかりです。でも「自分はいっも一人だな」と孤独を感じることはありません。私を大切に思ってくれる、周囲の方々に「大丈夫だよ、見てて。」と笑顔で言える2025年を過ごしていきたいものです。



ご法座等 のご案内

どなたでもご自由に
ご参加いただけます。
参加費は無料です。



1月

1・1
(水)

午後一時〜
元日会

1・12
(日)

午前十時〜
定例法座【金安一樹師（山口）】
正午〜
医療相談【佐藤公彦医師】

1・19
(日)

午前十時〜
なかよしクラブ
（乳幼児から小学生までとその保護者）

1・26
(日)

午後一時〜
定例法座・祥月命日合同法要
【新晃真師（山口）】

2月

2・9
(日)

午前十時〜
定例法座

【津守秀憲師（兵庫）】
正午〜
医療相談

【佐藤公彦医師】

2・16
(日)

午前十時〜
なかよしクラブ
（乳幼児から小学生までとその保護者）

2・23
(日)

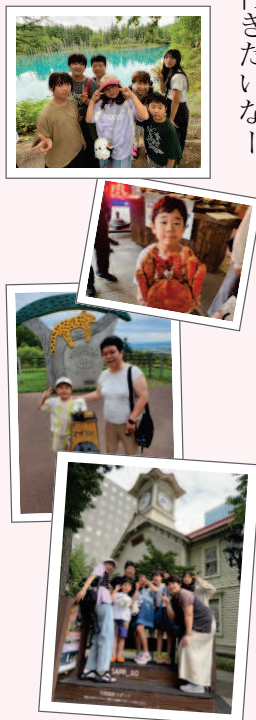
午後一時〜
定例法座・祥月命日合同法要
【中村啓誠師（広島）】

坊守の ひとりごと

誓願寺 坊守
古賀恭子

じじ抜き北海道の旅

2024年の夏休み。孫、娘、そして私。総勢七人。初めての北海道旅行。連日の猛暑で北海道とは思えない暑さ。汗をかきかき孫のあとを必死で追っていきました。また行きたいなー。



編集後記



令和六年を振り返ると「選」の一字が浮かんでまいります。数多くの選挙や右か左かを決める判断がありました。しかしその結果について、今年ほど予測を超えたことは少ないように思います。何度「そんなー」と思ったことでしょうか。何故そうなったのでしょうか？
価値観が多様化した為でしょうか。一つの事象に関して真反対の意見が余りにも入り混じっているように思います。フェイク・嘘だと感じられない様に工夫された情報も多数ありました。
・オレオレ詐欺に加え、暴力的な詐欺も増加しています。新年に期待する傍ら、身近になった危機管理の必要性を痛感する日々です。